

30年第4回12月 喬木村議会定例会総括

平成31年1月7日
議員全員協議会

総括する項目は以下のとおり意見集約することで多くの意見を参考に次に活かせるものと考えます。

■ 12月定例会の総括

① 【会期・日程・議会運営について】

【下岡幸文議長】

大きな課題のある議案がなかったため、14日間の会期で問題なかったが、調査研究、議員間討議の時間を考えると、もう少し長い会期が必要と思う。11月後半からの会期設定の検討も必要と思う。

【後藤章人議員】

議案を受け取ってから資料の読み込み、調査等するのに時間が足りない。会期が短いのではないか。予想外の件が発生し、慌ただしかった。

【昼神二三男議員】

今議会における議案審議の内容、請願・発議の件数からみて、特に問題点はない。

【下平貢議員】

議案の内容、ボリュームからしても、調査研究に時間的余裕は得られたと思う。一般質問から委員会までの時間もあつたので、切り替えがスムーズであった。夜間中心の運営、最終日の半日という日程も良かった。

【木下温司議員】

会期、日程については特に問題はなかったと考える。但し今回は補正予算など審議内容が少なかったのがよかったが、内容が多くなると質疑内容を整理し、討論・採決、本会議報告となると少しタイトである。

【佐藤文彦議員】

今回は予算決算委員会では補正も少なく、常任委員会への付託議案も無く、それぞれの委員会が後半だった為、余裕はあつたと思うが、繁忙期と重なり、特に意見集約を提出するまでの調査・研究の時間に厳しさを感じ

た。繁忙期で、1日1時間が貴重な時間の為、閉会日が午後からだったのは有り難く感じた。

【福澤真理子議員】

会期：審議する内容は多くはなかったが、忙しかった感がある。従前通りでよい。

【櫻井登議員】

会期・日程は従前通りでよいと思うが、開会日が11月下旬～末頃の日程が検討できていれば、年末諸般の多忙を多少緩和できるかとも考える。

【後藤澄壽議員】

妥当であった。

【東原靖雄議員】

会期、日程良く、審議出来たと思います。

【事務局】

会期の設定を今まで以上に期間を設けたい。議案に対する意見集約の結果をモニターに配布することが可能になり、傍聴の動機付けになると考える。試行期間の1年間は終了した。今までと同じやり方では興味関心はなくなる。

② 【一般質問について】

【下岡幸文議長】

今回は一般質問するための質問が多かったような気がする。一般質問の目的は政策論争が主で質疑は従であるべきと思う。全議員が必ずしなければならぬという意識を変え、十分に練った中身の濃い質問をするという議員と住民の意識改革が必要と思う。

【小池豊副議長】

誰が聞いても分かり易い言葉、内容での質問が大切かと。

【後藤章人議員】

11月が多忙であった為、一般質問のための調査、研究がしっかりできず、中身の薄いものになってしまい、反省している。

【昼神二三男議員】

持論の発表に終始することなく、政策を建設的な立場で論議すべきであり、簡潔明瞭で内容のある次元の高い質問をしたいものである。

【下平貢議員】

個人的には、提案型の質問にしたいところだが、まだまだ資料不測の感が否めない。自己研鑽に努めたい。

【中森高茂議員】

村長挨拶後の翌日を提出期限として頂きたいが、一般質問を会期前半に行うとすれば、村長挨拶の概要だけでも提出日前日までに通知頂ければその定例会のポイントを押さえる事が出来る。

【木下温司議員】

今回は11月が日程的に厳しく、課題抽出と調査に時間が無く内容の濃い質問とならなかった。

【佐藤文彦議員】

関連質問の際、議長の許可を取るべきだった反省する。傍聴者や職員から、また居眠りをしている議員がいたと指摘をされた。毎回指摘を受けているにも関わらず改善されないことを傍聴者の方にはお詫びした。見ている方はシラケるでしょうし、毎回聞かされる自分もうんざりする。それぞれの議員さんの責任だと思いますが、見ている方たちは喬木村議会として見えています。残念でなりません。

【福澤真理子議員】

質問は一つになってしまった。国も動き出しており、対策が進むことを期待する。今議会は10人であった。

【櫻井登議員】

将来の不安に関し、幅広い事柄について、また共通分野でも視点の異なる捉え方があり、直近の課題もありと質問は様々であり、偏ることのない答弁者の回答が得られたと思う。

【後藤澄壽議員】

それぞれの立場で多面的な質問ができてよかった。

【東原靖雄議員】

日曜日は区の事業があり土曜日に固定しても良いと思います。

③【事前質問・事前の意見集約について】

【下岡幸文議長】

議会モニターや住民へ早期に公開することは理解できるが、議案を受け取り、読み取り、自分の考えをまとめるにはそれなりの時間が必要。最低でも5日ぐらいは欲しい。

【小池豊副議長】

意見集約を公開するのは、自分の意見に責任を持つ事にも繋がるし良いことだと思います。傍聴への動機付けは、議員自らもアピールする事が大切かと。

【昼神二三男議員】

自身の事前検討と他議員の考えを知る上でも有効であり、継続を望む。

【下平貢議員】

事前の意見集約が大分定着してきたと思う。議案に対する向き合い方も変わってきたと思う。個々の考え方も参考になって良い。

【中森高茂議員】

事前質問や意見集約は今まで通りで良いと考える。

【木下温司議員】

このことについては、議会の内容を理解いただく上では重要な事ととらえる。あらゆる媒体を使い住民への情報提供を行うことにより、議会の活動内容や、議員の考えを知ることが出来、住民も議員も審議の参考になる。

【佐藤文彦議員】

毎定例会前に後援会へ意見・質問の聴取をし、一般質問や委員会への質問の参考にしている。その際、議員の皆さんの意見集約があれば、後援会に対して、「今回の定例会ではこのような内容で議論をする」と言うような事前の報告ができ、興味関心を持っていただだけ傍聴の判断にも繋がると思う。意見集約には時間が必要だが、議案配布がもう少し早くなれば、そういう対応も可能になるし、調査研究の時間も確保できる。検討をお願いしたい。

【福澤眞理子議員】

今議会は議案が少なかったが、議案書を受け取ってから意見集約までの時間がほしい。できる限り早く議案書をいただけるとよい。モニターの意見をみても、分かってよいと評価されていると思われる。

【櫻井登議員】

この方式を採用してから慣れてきて、情報共有による理解が進んできたように感じる。今後も継続していくことが良い。

【後藤澄壽議員】

傍聴者に問題意識をもって傍聴してもらおう手立てとして評価したい。

【東原靖雄議員】

事前に、質問、意見集約を HP に公表し多くの村民の人たちに議会の関心を持ってもらうことが大いに重要です。

【事務局】

早期に意見集約して議会モニターへの配布、HP に公表して住民に公開して傍聴の動機付けを図りたい。情報を積極的に公開することがモニターに限らず必要な時期を迎えた。

④【予算決算常任委員会について】

【下岡幸文議長】

補正予算に大きな課題がなかったからか、説明が丁寧すぎると感じた。協議内容が少ない時は、補正に直接関係しない事業についての質疑を行うことで、議員が今年度事業の事業評価の参考となるのではないかと。

【小池豊副議長】

事前の質問で、理解できることが多く良かった。

【昼神二三男議員】

意見集約した内容を付託審査の場で、再度の質問はパフォーマンスと感じる。上記事務局案が実施されるなら事前集約分の質問は省略してもよいと思う。

【下平貢議員】

人事院勧告の補正が主体で、内容も少なかったが、12人の視点で多くの質問が出来たと感じる。

【中森高茂議員】

事前質問に回答頂いた場合質問者が十分理解できていればあえて再度確認や質問しなくてもよいと思うが、質問者以外の議員でその質問内容を深く聴きたい場合や不明な点があれば再質問の有無を確認する進行が必

要かと思われる。あるいは質問が無い場合、委員長が事前質問内容と回答を説明する事により傍聴者も分かりやすくなると感じる。(特に6・12月予算決算常任委員会において)例)〇〇に対し〇〇と回答頂きましたが質問者は再度質疑がございませんか。他の議員はこれに関連した質疑ございませんか。

【木下温司議員】

事前質問・事前の意見集約の活用について、もう少し考える必要がある。出せば終わりではなく、せっかくの良い意見も記録のみに終わってしまい、議員の思いが、住民に伝わらないこともある。

【佐藤文彦議員】

少額の補正については、開会日に即決でも良いのではと思ったが、委員会付託の形式をとるのであれば、本会議開会での説明は省いても良いのではないかとありますが、如何か。

【福澤真理子議員】

ほぼ審議はすんでおり、本会議前の委員会の質疑はほとんどないが、自分は聴き忘れたと思ったことを質問した。万が一いろいろ出るようなことがあると、委員長は、そのあとすぐ本会議になるので、委員長報告が大変になるかと思った。

【櫻井登議員】

人勧や下水道事業の企業会計移行に伴う内容が主であり、特でない。

【後藤澄壽議員】

下水道会計への「公企業会計」の導入の意味について今後も議論を深めたい。

【東原靖雄議員】

款、項、目の流れが分かりやすく思ってきた。

⑤【総務産業建設常任委員会について】

【下岡幸文議長】

スムーズな解りやすい委員会進行だったと思う。

【小池豊副議長】

付託審査等、活発な審議ができたと思います。2時間の時間制限については、予備日もあるのであまり気にしないほうが良いのかも。

【後藤章人議員】

傍聴する方々からは、いまだに、審議の内容が見えないと言われる。集約した意見を広く知ってもらい、傍聴に足を向けてもらいたい。

【昼神二三男議員】

付託議案の審査においては、納得いくまで質疑ができたし、自分の意見を述べることができた。

【下平貢議員】

議案、請願に対し、真摯に対応できたと思う。特に、消費税の課題に対しては、住民の方々も関心の高いところ。調査研究し個々がしっかりと発言できたことは良かったと思う。

【佐藤文彦議員】

傍聴をさせていただいたが、請願者への対応に疑問がある。個人的には質疑では質問・確認に留めるべきで、否定などの意見は討論するべきではないかと感じたが、確認したい。

【福澤真理子議員】

紹介議員として段取り（趣旨説明に来てくださる方の把握に時間がかかった）が悪く、ぎりぎりまでかかってしまい、委員長に負担をかけた。多くはないが、飯伊においても採択された議会もあり、請願は不採択となり残念であった。

【櫻井登議員】

付託審査の傍聴から、予想の不採択となり残念なことであった。消費税増税に関しては、多くの問題を含んでいるだけに難しい。2014年までの消費税総額は282兆円、同期の法人税減税が255兆円、社会保障費は、財政再建は、景気回復はどうなったのか。良くなった実感がない。軽減税率は富裕者にも恩恵があり、格差は是正され難い。ポイント還元は不公平感ばかりが目立ち複雑化して小売店や消費者は困惑する。消費税は据え置き、法人税減税を元に戻すことが良い。これは実現の見込みはないと思うが、庶民には税の公平感として分かり易くありがたい。

【後藤澄壽議員】

「消費税反対要請」については、重要な問題なので、自由討論をしてもよかったのではないか。

【東原靖雄議員】

請願7号は良く討論出来た、要望書の審議は、提出者の説明が有った方が良いです、内容がより分かりやすいから

⑥【社会文教常任委員会について】

【下岡幸文議長】

委員会内容はよかったが、請願の説明や質問も時間がかかりすぎて、最後の国保の説明や質疑に時間が取れず残念だった。

【中森高茂議員】

請願者の説明時間も一請願に対して何分以内と決める事により進行がしやすいと考える。また質疑が長すぎるのは相手からの確な回答が得られなくなるため、要約質問と一問一答方式にてお願いしたい。また、傍聴席からの発言は許されていないため、次回より退室を勧告する場合がある。

国保関連の説明時間が不足する事が予想できたのに（事前の打ち合わせの内容から）、予備日への変更する事を途中でその進捗状況から委員長が判断すべきであったと反省している。二時間での終了を目指して充実した委員会としたいが、十分な審議や説明に対しての十分な理解が無ければ中途半端となり委員長の責任を痛感している。

【木下温司議員】

今回は、付託議案はありませんでしたが、請願が1件あり、活発な議論が行われたと考える。時間の配分が難しいが、保育園の在り方、国保の関係はじっくりと研究、委員会としての方向性を出していく。

【佐藤文彦議員】

請願者への質問で、答弁の中に願意が感じられず、今思えば主旨採択として、議会としての意見書提出でも良かったのではないかとも思う。

委員から、表題に囚われる必要はないと言う主旨の発言があったが、「願意の妥当性」からみても、それは有り得ないことだと感じる。確認したい。

【福澤真理子議員】

紹介議員として段取りが悪く、ぎりぎりまでかかってしまい、委員長に負担をかけた。本請願は、飯伊の町村では採択された議会も多かった。自分の力不足と思うが、一部採択であったが、採択され意見書を上げること

ができ、関わる方々の願いに応えられてよかった。
委員会の時間延長があり、最後は切ってしまった感があった。

【櫻井登議員】

医療介護の労働環境と夜間の勤務体制は以前から改善を望まれているだけに深刻。医療介護現場に従事している医師・看護師・介護福祉士他、医療現場介護現場の従事者の努力が苦境の現場を支えている。そしてそのことが尊敬されていることなども分かるが、その結果、疲弊の原因になっており、過酷さの不安の声が伝わってくる。過労死・自死は大きな社会問題。本来、増員して体制づくりを強化し、労働環境改善に努めなくてはならないと思う。一部採択ではあるが、この請願に応えられて安心感もある。

■提案いただきたい事項

1 1月5日全員協議会で任期中の夜間・休日議会運営について継続。通年会期を含めた研究を1年間行い、方向性を出すこととなりました。そこで今年1年間の限られた仕組みを見直す必要があると考えますので以下の事項について考え方・提案をお願いします。

特に議員全協・常任委員会を1日に集約して運営していることについて限界を感じている議員もいらっしゃいます。

①議会運営委員会の在り方について

・定例月

【下岡幸文議長】

どの委員会においても関係があるが、議運の検討の際に初めて議案を見て、委員会の日程や進行を考えなければならない委員長は大変と思う。

せめて、1日前に議案を検討し、夜間2時間の会議が難しいと判断すれば、昼間の開催や開始時間を早めたりする対策も可能となる。

【昼神二三男議員】

開会前 閉会前

【下平貢議員】

従来通りの開催で良いのではないか。

【木下温司議員】

常任委員会、特別委員会に関しては、1年間を通じ会議日程を増やすことが必要と考える。研究内容が多岐にわたり限られた時間には集中した審議ができない。但し、常任委員会以外に特別委員会の幾つも参加されて

いる委員もいるので、相互の連携と議員の日程調整、それに伴う委員会の開催計画（各委員会の年間計画をもとに、委員長間での調整）が必要。定例月に関しては、議案等について検討することが主と考える。

【福澤真理子議員】

メンバーでなく、実際の動きが理解できていないので、申し上げられません。委員の皆様にはご苦勞をおかけしていると思うが、スムーズに運営されていると思う。

【櫻井登議員】

議会運営上の「通年議会（会期）の研究を1年間行う」ことが決まったこと。「議会改革特別委員会」を立ち上げることが決まったこと。

さらに「1年間の限られた仕組みを見直す必要がある」とは何（？）。

→1年間の限られた仕組みとは「試行期間の1年間」のことであり、不具合が生じていることは、総括の中で既に課題提起されていることです。（事務局回答）

「1年間かけて通年議会（会期）の研究を行うために、議会改革特別委員会を柱に据え置いた仕組みづくり」ではないのか？

議会改革特別委員会を中心に全議員で1年間研究すれば良い。そのために「同委員会」が存在する意味だと解している。

→議会改革特別委員会は、要綱（案）にあったとおりに議長から諮問された事項についても研究する組織であり、通年会期という特定の事項に限って検討する組織でないこととお読み取り願いたい。（事務局回答）

議員全協・常任委員会を1日に集約して運営していることは、「兼業議員の活動しやすさ」という点からすれば、議会改革の出発点に立ち納得できる。しかし、兼業議員は、被雇用者の立場と自営業者（法人含む）では一括りにできない事情は周知であり、1日に集約して運営してきた実績を踏まえて継続する努力が必要。原則と例外を規定し運用することも必要。

あくまでも議会優先であるが、勤務先とのやり繰りを工夫する努力は相変わらずやっていく。決まったことを「一つひとつ確実に実行し積み上げること」が最も重要

現状における運営上の課題が見えていないので、課題を出していただければと思います。なければ現状継続で良いと思う。委員の立場ではないので、意外のコメントはなし。

・閉会中

【下岡幸文議長】

閉会中の議運の役割の中心は、全協と議員全協の協議内容の検討。進行と委員長が連携し、協議内容を作成、議運で検討するスタイルを創るべきではないかと思う。

【後藤章人議員】

会期の長期化もしくは通年となれば都合が良いと思うことが多々あった。

【昼神二三男議員】

1回／月

【下平貢議員】

臨時会の開催が見込まれる場合は別として基本的には、必要に応じて随時開催が良いのではないか。

【木下温司議員】

閉会中については、特別な問題が発生しなければ、招集は必要ないと思うが、ただ今後課題が多くなることも予想されるので、その都度対応することが望ましい。

【福澤眞理子議員】

メンバーでなく、実際の動きが理解できていないので、申し上げられません。委員の皆様にはご苦勞をおかけしていると思うが、スムーズに運営されていると思う。

【櫻井登議員】

委員長、議長の判断により、必要と認められた時、随時開催ができれば良いのではないか。

【東原靖雄議員】

閉会中の発議7号の取りやめは残念です、内容の諮問を良く考慮して発言をしてはと思います。

②全員協議会の在り方について

・定例月

【下岡幸文議長】

以前の全協で説明があったにも関わらず、委員会で初めて聞いたような質問をする議員がいることから、当面の間、タブレットの資料に加え、特に重要と思われる資料は紙ベースで配ることを検討したらどうか。

全協の基本は「協議又は意見調整の場」であり、首長や執行機関職員は議会の求めに応じて出席するものと考え、議員や執行機関の報告は双方に必要な内容や意見を聴取するものに限っても良いのではないか。全協のあり方の検討は必要と思うが、議員全協のあり方も課題となる。

【後藤章人議員】

今定例会のように、開会日のみというのも良いのではないか。

【昼神二三男議員】

1回（開会日）同時開催の可否は、ボリュームによりその都度の判断でよいが、可能な限り同一日同時開催を望む

【下平貢議員】

本会議前の全員協議会の開催という方法には賛成。議案の事前配布があると事前準備もしやすいと考える。

【木下温司議員】

基本的には議会初日に報告を受ければと思うが、広域連合、北部事務組合等の動きについては、担当以外情報が入らないことが多い。今後リニア、三遠南信自動車道、地域の交通ネットワーク・道路のアクセス関連等、情報を共有しなければならない案件が多くなると思うので、できるだけ多くの情報収集のためには必要。

【佐藤文彦議員】

定例月での全員協議会は今まで通りで良いと思う。

【福澤真理子議員】

従前通りでよい。12月第2回臨時会はまだ開かれていないので。（11月の第1回臨時会？）事前に説明を聞くことができれば、理解は深まると思うが、常にという意味か？全員協議会は情報提供、共有の会議ととらえているが。同時開催は検討の必要性とは？

→議会で詳細説明が必要と判断するものでよいと思いますが、決定するの

は議員の皆様です。1日に全てを集約することの是非を検討する必要があるのではないかということ。(事務局回答)

【櫻井登議員】

事前の議案説明とは、第1回臨時会のことと思うが、特に区別なく同様にやっていくことは必要なこと。(第2回臨時会は12/26ですね。)

議員全協と常任委員会の同時開催の検討とは、意味がよく理解できない。それぞれ独立した機関を、敢えて同時開催とは何か?どうしたいのか?

→現行全員協議会と常任委員会の開催日を同日に実施している事について十分な審査ができない。形骸化した委員会になっている等の意見が有りますのでその旨記載しました。(事務局回答)

報告事項は従前通りで良い。

【後藤澄壽議員】

現行でよいと思う。

【事務局】

12月第2回臨時会のように事前に議案の詳細説明があれば、簡易な質問も減るし、理解も深まる。調査研究もより深く調査できるメリットがある一方で議員全協・常任委員会の同時開催は検討する必要がある。(事務局)

・ 閉会中

【下岡幸文議長】

定例月の内容と同様。但し、半日で全協、常任委員会、議員全協を行うのは協議内容が不十分に終わる可能性が高いのとただノルマをこなしたとの印象が強い。

【昼神二三男議員】

基本的には、1回/月。同時開催の可否は、ボリュームによりその都度の判断でよいが、可能な限り同一日同時開催を望む。

【下平貢議員】

現行の通りで良いと考える。閉会中についても、事前の資料配布があると準備がしやすいが、資料が膨大になる場合は難しいと思われる。環境整備も必要と考える。

【木下温司議員】

定例月でない月でも、月初め等に設定いただければと思うが、内容が無ければ必要がないので、無理して日程を組むことはない。

【佐藤文彦議員】

毎月の企画調整会議後の開催は定例化されてきたと思うので、継続してお願いしたい。

【福澤真理子議員】

情報が遅くなるので、区長会と歩調を合わせて情報を共有するというところで、定期的に行うことで、今の方法でよいと思う。

【櫻井登議員】

必要に応じて。

【後藤澄壽議員】

必要に応じてでよい。

③議員全員協議会の在り方について

・定例月

【下岡幸文議長】

議員全協の最初の目的（全体会の時代）は、村政の各事業の勉強会であり、意見交換会だった。今は議会運営や議員活動の検討が主となっており、事業の勉強会や議員間討議は常任委員会の年間計画で行うと理解している。となると議員全協のあり方と全協との棲み分けを再検討すべきと考える。

【小池豊副議長】

総括については、一定期間をおいての審議が妥当かと思います。

【後藤章人議員】

協議の内容を前もって知っていた方がよいのではないか。

【昼神二三男議員】

2回 （開会日・閉会日）

【下平貢議員】

委員会間、議員間の調整、共有が主体となるのだと考える。日程の関係

からも多くの時間は費やせないと考える。

【木下温司議員】

議員全員協議会は、議員相互の議論の場として、テーマに沿った運営が必要と考える、連絡事項はできるだけ簡略化し、各委員会からの検討事項、当面する課題についてなど、時間配分等計画的に、また、進行の仕方の研究が必要。

【佐藤文彦議員】

定例月については、今の形で良いと思う。ただ、限られた時間ではあるので、スムーズ（内容を把握しての）な進行に務めていただきたい。

【福澤真理子議員】

現状でよいと思う。

【櫻井登議員】

開会時、閉会時の都度開催していることは運営上の附帯として理解している。従前通りで良い。

【後藤澄壽議員】

現行でよい。

・ 閉会中

【後藤章人議員】

協議の内容を前もって知っていた方が良いのではないかと。

【昼神二三男議員】

基本的には、1回／月

【下平貢議員】

研究テーマ、調査研究内容を明確にし、目標をきめて課題解決にむけて進められれば良いのではないかと思う。

【木下温司議員】

定例月以外にも、議員全協の開催は必要と考える。

【佐藤文彦議員】

午後からの日程では、全員協議会もあり、時間的に厳しい。1日に集約

するのであれば、常任委員会も含め、午前中も有効的に使えれば良いと思う。

【福澤真理子議員】

全員協議会に続き開くということで、夜間から昼間開催にもってきた経過があると思う。午後からの開催で、全員協議会、委員会、議員全員協議会とめまぐるしく、忙しい感はある。開始時間は9時でなくともよいが、一日かけてやるなどはどうか。

【櫻井登議員】

通年議会（会期）を考えるならば、そうではない現状では、議員全員協議会の開催はあった方がいいし、議決を除けば、議員全員協議会により対応ができることは大いに結構だと思う。本会議の総括をする他、必要に応じて議員全員協議会の開催があれば良い。

【後藤澄壽議員】

必要に応じてでよい。

④常任委員会の在り方について

・定例月

【後藤章人議員】

定例会中は、委員会開催も容易に行えるが、閉会中はどうしてもなかなか実施できなくなってしまう。その結果、委員長に大きな負担がかかってしまう。

【昼神二三男議員】

基本的には、1回

【下平貢議員】

議案審議中心となる。内容によっては、年間テーマに添った内容となる。

【中森高茂議員】

夜間開催二時間での不足がその内容から明確な場合予備日の日程を事前に組み込むように正副委員長での決定が必要であり、議運にはかる。

【木下温司議員】

総務産建、社会文教ともに検討課題が多いので、付託案件が無くても、年間の研究課題について、論議することが必要。但し、付託議案が多い場

合は、2時間で足りない場合もある。

【佐藤文彦議員】

請願などがあつた場合の時間配分は難しいが、夜間の2時間は議案、請願・陳情の審議がメインとなると思うので、それぞれの内容を考慮し委員会としての学習会は別日の設定でも良いと思う。

【福澤真理子議員】

現状でよい。時間の不足があれば、予備日を設定しているので、時間で切ることをせず、予備日を使えばどうか。

【櫻井登議員】

必然事項以外の何物でもない。従前通りで良い。

【後藤澄壽議員】

現行でよい。

・ **閉会中**

【下岡幸文議長】

閉会中は夜間の2時間を使い（開会は6時からでも良いと思う）、年間計画に沿い、事業や課題の学習、議員間討論をじっくり行い、定例会に請願・陳情だけでなく、委員会として国・県・村に提言書・意見書を提出できるような活動も必要と思う。

【小池豊副議長】

常任委員会の検討内容と方向付けが、提案の基本になってくると思われます。定例月、閉会中もそれぞれの意見を聞き、討論が大切かと思えます。

【昼神二三男議員】

基本的には、1回／月

【下平貢議員】

研究テーマ、課題等の調査・研究をより深めていくには、現行の30分程度の時間では難しい。新たな日程調整が必要だと考える。

【中森高茂議員】

社会文教常任委員会は、県・国の制度などの変更が頻繁に行われ、学習を議員個人および委員会全員で行わないと的確な提案などできない。村へ

の提言を行うには各課の取り組みを理解し県や国の動向も注視しながら提案できる能力が必要であり。学習の場としての委員会は最低月二回は必要である。

【木下温司議員】

定例月以外は定期的に、年間のテーマを設定し論議する。また、緊急課題等についても、タイムリーに対応できる体制を整える。

【佐藤文彦議員】

計画に沿って行われていくと思うが、やはり月1回では現在ある課題を検討するには時間的に厳しいと感じる。毎月の全協との同日開催の他に、夜間も含め、複数日計画されても良いと思う。

【福澤真理子議員】

委員会毎計画して行うことでよいのでは。必要で、委員同志の同意があれば、回数は必要に応じて。

【櫻井登議員】

専門分野に関する調査研究は期間を問わず、時系列かつ継続的に進めていくことが効率よくできる。そのような取り組みが望ましい。開催回数に拘らず必要に応じて行うことが良い。

【後藤澄壽議員】

閉会中の継続審査および所管事務調査の範囲内で行えばよいと思う。

【東原靖雄議員】

大規模災害時に委員会を緊急招集して災害に対応することは村民の生命財産を守ることは必要です。

■新年度予算編成にあたり提案願います

【下岡幸文議長】

厳しい財政運営の中ではあるが、将来を考えると人材育成が大事と思う。職員と議員の資質向上のため、研修・視察・講演などをさらに増やして欲しい。また、県や広域連合への職員派遣も積極的に検討を。

【小池豊副議長】

議員報酬について、検討に入る他町村議会を聞きます。喬木村議会としても住民意見を参考に検討を。消防団補完組織の充実と予算措置検討されたい。

【昼神二三男議員】

第5次喬木村総合計画に則ると共に、平成30年度事務事業評価シートにおける継続する全事業の課題を確実に網羅すること。

【下平貢議員】

決算から提言された内容が、いかされたのか、いかされなかったのか。次年度の重要案件を明確にし住民に分かり易く表現することも大切ではないか。

【木下温司議員】

自主財源の大きな伸びが期待できない中、交付税に関しても大きく増える要因もない。ふるさと納税もこれまでの状況とは変わってきている。その中、教育関連施設、橋梁や道路関連の補修、防災など支出の範囲も多くなってきている。限られた予算を有効に執行するため、第5次総合計画に沿って事業を遂行していくしかないと思われる。

【佐藤文彦議員】

新規タブレットの早期導入。インターネット議会中継の検討。講演会開催。

【福澤眞理子議員】

村営バス運営、交通ネットワーク運行事業・移住、定住推進・移送支援事業・保健事業・介護保険関連・公園維持管理（今後の整備計画）・児童クラブ事業・地区サロン支援事業

【櫻井登議員】

- ・ 公共施設のトイレ洋式化増設（複数ヶ所対象に）
- ・ 公共施設要所に監視カメラ設置
- ・ 村内随所の案内看板・注意看板の損傷・落下が目立つ。補修・取り換えを。
- ・ 議会だより紙面構成の改善見直し（一般質問は議員1名1頁他）
- ・ 上・下水道施設の設備更新基金新設

【東原靖雄議員】

毎年台風により災害が発生している、村林道管理上倒木により通行できないヶ所増加して来ているので、小規模的な予算の確保お願いしたい。

■ 3月定例会（新年度予算）に向けて審議方法について

9月決算議会には「わかりやすい予算書概要総括」＋「事務事業評価シ

ート」を活用して審議しました。3月定例会に向けて事前準備が必要です。

新年度は各課より新事業が提案されることは、全員協議会に既に報告されたところです。決算議会よりも新年度予算の方が重要と思われますので審議方法（事業抽出？）説明事項等細かに提案下さい。

【下岡幸文議長】

事業の継続性、選択と集中の2点から予算審議を行いたい。主要な施策、新規施策、拡大施策、廃止施策などを抽出し、施策の具体的実施内容、予算額、財源内訳の説明を受けることで、施策の有効性、費用対効果、予算額の適正などを判断したい。

【小池豊副議長】

新規事業の細かな説明等、お願いしたい。予算審議に当たっては、事務事業評価シートは、不要かと思われます。

【後藤章人議員】

決算認定の時より抽出する事業を吟味し、じっくり審議しなければいけない。できる限り早く議案を出してもらおうか、予算決算常任委員会の日程を増やす必要があるかもしれない。

【昼神二三男議員】

全事業の審議を基本とするが、前年度予算額からの増減のない経費、負担金等については、抽出により省略する。早期の資料配布により、事前質問を可とする。前年度事務事業評価シートにおける課題について、具体的な取り組みの説明を求める。

【下平貢議員】

事業抽出は必要だと考える。わかりやすい予算書の活用は、必要だと感じる。

【木下温司議員】

保健・福祉・医療の分野

特定健診事業の更なる充実と村民の意識向上に向けた取り組み。

出合い・結婚の支援

交流、出合いの開会を増やすため、今まで関係してこなかった地域との交流促進。

道路・交通網の充実

工場団地事業（伊久間リニア関連工場団地）早期の具現化

村営バス、コミュニティバスの充実と中断地域のサービス向上

生活環境

消防団員の減少、大規模災害への対応など、地域防災の充実が重要となってきています。区、自治会等の組織体制に向けた啓発活動。

豊かな森林の育成と活用

里山整備による景観保持、竹林の整備など村挙げての対策が必要。

観光の振興

交流センターを中心に、観光事業の充実が必要、各分野の観光に関する地域人材を活用し、喬木村の観光行政について検討する。

保育、教育の充実

2019年10月から予定の幼保無償化に向けた対応。

生涯学習の推進

公民館行事の見直しと公民館の在り方についての検討が必要

スポーツ活動の推進

スポーツイベントとして、内容の充実に向けた検討。

【佐藤文彦議員】

現段階では、特になし。事業抽出には施策評価シートを参考にできればと思う。(決算では事務事業評価シートを活用して行ったが、いくら事務事業が達成できていて高評価でも、政策・施策の達成に対して貢献度が低ければ、事業そのものが間違っているのかも知れない。)

今まで議会からの提言事項が予算に反映されているかは気になる。反映されなかった場合の事後対応は、前もって検討しておく必要があると思う。

【櫻井登議員】

- 分野1 1-1-6 健康増進事業経費 = ICT活用の取組み
- 1-1-8 疾病予防費 = ICT活用の取組み
- 分野2 2-1-7 村営バス運営経費 = 運行見直しと効率運営
- 2-4-? 上水道施設長寿命化事業 = 事業計画の有無は?
- 分野3 3-4-3 防災施設管理経費 = 災害時の情報受信SNS対応
- 3-5-1 交通安全防犯一般経費 = 監視カメラ設置の検討
- 分野4 4-1-1 多面的機能支払い交付金事業 = 農村環境保全強化
- 4-2-5~7 森林造成等関連 = 下刈り、間伐、景観形成
- 分野5 5-1-19 ICT活用教育関係経費 = 教育機関+周辺拡大
- 5-2-1 公民館運営経費 = 公民館事業運営の改善見直し等
- 5-7-1~3 子育て支援の充実 = 健全育成のサポート強化
- 分野6 6-1-5 議会一般管理費 = 議会だより紙面構成改善見直し

【後藤澄壽議員】

事業抽出にあたっては、各議員の意見を聞いて、きめ細かな説明をして

もらう必要がある。

【東原靖雄議員】

水道、下水道事業が公営企業に移行したため、事務事業シートとの関連付けができるのか説明願いたい。

■北部ブロック町村議会当番村です。総会・研修会の在り方についてご提案願います。

【下岡幸文議長】

年間計画の早期策定。北部ブロックとして県だけでなく国への要望活動の検討。親睦マレット大会の開催日検討。総会・研修会への来賓招待者の検討。

【小池豊副議長】

リニア対策に向けて、飯田市会議員の意向考え方を聞いてみては。(153号線拡張について、長野県駅と周辺の対応について)

【後藤章人議員】

休日夜間を実施している当村としては、今までと違った方法も良いのではないか。例えば、親睦のマレットゴルフをやめ、初めから議事を行う。平日の昼間のマレットには少し抵抗感があり、できれば仕事もしたい。後の懇親会で親睦を深めることはできる、当番村の議員、事務局の負担が軽減できれば。

【昼神二三男議員】

基本的には従前のスタイルを継続していく。変更する場合は、事前に各町村の了解を得ておく。(当番村の裁量に任すと統制保持が不安)

【下平貢議員】

喬木村としての取組の特徴である議会改革を一つのテーマとしてすすめたら良いのではと考える。

【中森高茂議員】

マレットゴルフなどスポーツで親睦をはかることも大切かもしれないが、希望者で行えばよいと思う。今までの習慣に流されることなく当番村が工夫を凝らした研修会を行えるように喬木村より提案して行くべきと考える。例えば、村の特色ある産業・観光やICT活用教育・校務支援システムへの取り組みや特定健診や保健指導への取り組みの紹介など(各分

野での話題提供)を行い、他町村の議員の考えや意見を聴き、さらなる改善点や新たな発想が生みだせないか模索できるような研修会にしたい。

【木下温司議員】

基本的には県への要望内容の検討が中心となるので、大きく変えることは難しいと思います。後半の会議についても要望経過、県議会からの報告については今までどおりの対応になると思います。但し、後半の総会前の交流イベントマレットゴルフについては中止しても良いと考えるが、議員の改選となる自治体もあることから、報告後飲酒だけでの交流については一考を要す。

【佐藤文彦議員】

それぞれの町村での意向もあるとは思いますが、変革の時期なのではないかと感じる。マレットでの交流が必要か必要でないかは特に意見はしないが、一般の方が見ても理解される開催方法を検討すべき。

北部として、今何をすべきか？ 一丸となって取組むべき基本目標を策定すべきだと思う。

【福澤真理子議員】

踏襲でよいのでは。ただ一見すると食べて飲んで遊んでいるイメージ？

【櫻井登議員】

前例踏襲でいいと思うが、会場運営、進行方法などの役割分担を早めに決めてシミュレーションすることがいい。マレットゴルフは大原机山のコースもあるし、やった方が親睦も深まる。昼食時は会場にニュース・BGM等を流したほうがいい。(今まではなかった)

【後藤澄壽議員】

総会・研修会は現行のままでよいが、親睦マレットは廃止する方向で検討したらどうか。

【東原靖雄議員】

議員のなり手不足から喬木村の議会改革で上げてきた、「休日、夜間会議」を報告、説明を行ってはどうか、まだ成果として上がってはないが、1年間行って来た報告、その間の歩んだ成果を説明してほしいと思います。

【事務局】

議会改革の取り組みで注目を集めた喬木村議会が平日の昼間に親睦マレットゴルフをすることが果たして如何なものか？前年度より見直し

案を提言している。事務局職員の間でも疑問視する声が多い。親睦を深めたいイベントは休日に行うべきと考えます。事務局としては、講演会を充実したいと考えています。

■その他提案事項

【下岡幸文議長】

定例会の開始前、終了後に全員起立・礼をしている議会あり。採用したらいかがか。(松川町議会・高森町議会) また、本会議において質疑・討論の申し出がない場合、申し出がない旨を説明し直ちに採決している審議方法を採用したらいかがか。(飯田市議会・長野県議会)

【後藤章人議員】

議員の負担に大きな差が感じられる。平準化の方向を探るべき。

【中森高茂議員】

休日・夜間議会の取り組みへの研修依頼において、私は出勤日数の問題などから対応できませんが、休日夜間に研修されたいとの依頼があれば責任を持って率先して対応したいと考えています。

【木下温司議員】

3月定例会の予算審査にあたっては、昨年同様補足説明資料の提供をお願いします。(例えば：各区・自治体からのヒヤリングでの予算請求箇所と執行予定箇所、喬木村水道事業損益計算集計表等)

【佐藤文彦議員】

まだまだ傍聴者には、各委員会審議が解りにくいと言われる。また、特に予算決算委員会では、執行部・職員側の発言が聞き取れない(背面の為)との意見もある。マイクの使用など検討できないか? 議会としての行政評価(施策評価)。

【事務局提案】

- ①一般質問の様式について、新様式を作成したので検討願いたい。
- ②議会モニターに配慮して常任委員会開始前15分間審議する内容について説明する必要がある。「今回はこういう内容を住民に代わって審議して決定する」ということを理解いただいた上で傍聴して貰うことが大切。
- ③議会モニターが発言できる時間を設けることはできないか。ただ傍聴す

るだけでは何も面白くないと感じてはいないか。傍聴アンケートを提出した結果、何を改善しているのか。何が解りづらいのか。把握する必要がある。

④議会モニターとの懇談の回数を持たないか。全員の招集が困難であれば、一般質問終了後、委員会終了後、本会議終了後実施することも有効ではないか。

⑤議員評価を議会モニターにお願いすることも良いのではないだろうか。